

★ アンケート回収数は、児童77名、保護者76名、教職員9名である。  
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、評価(A～D)は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。  
 ★ 平均、総合評価は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 学 び【知育】 (A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	対象	評価					平均	総評	学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
			A	B	C	D					
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	49 47 22	42 49 78	9 4 0	0 0 0	3.4 3.3 3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校・少人数学級であることの利点を生かし、児童一人一人の実態把握に基づく指導法の工夫改善や個に応じた指導を心がけてきた。児童・保護者の回答結果からその取組を肯定的にとらえていることがうかがえる。</li> <li>○ 学習習慣の評価指標として児童の自己評価80%達成を挙げたが、70%の達成率であった。姿勢や自分の考えを発表する態度など継続した指導が必要である。</li> <li>○ 家庭学習の評価指標として児童の自己評価90%達成を挙げたが、目標以上の回答であった。児童一人一人の取組を適切に評価するとともに見届けを確実にすることが大切であると考え。</li> <li>○ 読書習慣定着として読書貯金、家読の推進に取り組んだ。評価指標として読書量を低学年学期80冊、中・高学年学期1000Pとしたが、概ね達成できそうである。今後は質の向上を目指したい。</li> <li>○ 学力向上に関わる評価指標としてCRT(現学年での学習内容のテスト)国語・算数が全国平均を上回ることを挙げたが、全校平均で国語が全国比101、算数が104、理科が101であった。いずれも全国平均を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 読書推進をこれからも続けてほしい。</li> <li>◇ 読書の習慣は将来とも大切で必要であり、定着はたいへんよいと思う。</li> <li>◇ 子どもたちの読書貯金、家読の推進の結果は年々の積み重ねとその実行に対するチェックと評価がその後の励ましにもなるので、大変だとは思いますが今後も確実に行ってほしい。</li> <li>◇ ○年生は宿題が多すぎるとか、少ないとか…色々耳にする。私は一番大事な時期に机につく時間を身に付けることは大賛成である。習慣は低学年で付けさせることは大事だと考える。</li> <li>◇ 中学校に入学生はほとんどが塾通いが必要と聞く。少人数の利点を生かして低学年のうちしっかり基礎学力を身に付けさせてほしい。</li> <li>◇ 先生方の自己評価が低い。もっと自信をもってよいのではないかと。</li> </ul>	
2	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	23 56 22	47 41 78	20 3 0	10 0 0	2.8 3.5 3.2				
3	先生は、宿題や宅習など、日々の家庭学習への適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	72 62 22	20 33 78	8 5 0	0 0 0	3.6 3.6 3.2				
4	先生は、本に親しみ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	57 49 44	30 45 33	10 6 23	3 0 0	3.4 3.4 3.2				

2 笑 顔【徳育】

	評価項目	対象	評価					平均	総評	学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
			A	B	C	D					
5	学校は、元気なあいさつや正しい言葉づかいについて適切に指導している。	児童 保護者 教職員	56 64 22	34 28 67	9 8 11	1 0 0	3.4 3.6 3.1	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣と環境美化について、児童の自己評価90%を評価指標として挙げたが、若干下回った。明るく元気なあいさつをする児童は多い。無言清掃も徹底している。今後はいつでも、誰に対しても、同様の取組ができるように指導を継続する必要がある。</li> <li>○ 環境美化に関して保護者から高い評価を得られた。学級園や学校園施設環境整備を計画的に行った結果と考える。</li> <li>○ 不登校児童が1名いる。関係機関とも連携し改善の兆しは見られつつある。不登校につながる深刻ないじめもなかった。毎月アンケートを実施しているが、遊びの中で言い争いや思いやりに欠ける言動があがることがあった。その都度学級担任や生徒指導主事が指導をし、人間関係がこじれないように留意している。</li> <li>○ 地区での登校班編成、地域の方々の見守り活動、水曜日の一斉下校等により登下校の安全が保証され交通事故はなかった。計画的に避難訓練を実施し、児童・教職員とも確実に意識が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 登校時は元気のよいあいさつがある。家庭・地域での日常生活においても学校生活と同様に明るく元気なあいさつができる習慣を育てる環境づくりに学校・家庭・地域が共に取り組むことが重要である。</li> <li>◇ あいさつについては私自身極力進んで行うようになっている。子どもたちが先だとか、後だとかは関係ないと思う。</li> <li>◇ 保護者は好感をもって子どもたちを見守っていることが伺える。まずそれが第一と考える。</li> <li>◇ 私も月に3～4回、子どもたちと接する機会がある。その日によって言葉遣いや態度に目を見張ることがある。そのような時に限って、宿題プリント等を終えて運動場に出ると、先生に呼ばれて話をしている姿を見てきた。そんな時に、他の子どもたちがいないところでの指導をされているのだと感心した。しかも何かあったその時に指導するということは今後も実行して行ってほしい。</li> <li>◇ 不登校、いじめ等はないことが第一である。ちょっとした言動が原因になるのではないかと。その対応はもちろん行動等を注視しておくことも大切と思う。</li> </ul>	
6	学校は、清掃が行き届いており、花づくりなど美化活動・環境整備に努めている。	児童 保護者 教職員	51 82 22	43 17 78	6 1 0	0 0 0	3.4 3.8 3.2				
7	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	77 71 56	22 32 56	3 5 0	0 4 0	3.7 3.5 3.4				
8	学校は、安全な登下校や危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	77 71 56	18 26 44	4 3 0	1 0 0	3.7 3.7 3.3				

3 元 気【体育・食育】

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	75 73 56	21 24 44	4 3 0	0 0 0	3.7 3.7 3.6	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力向上では新体力テストB判定以上の児童が60%で評価指標の70%に届かなかった。しかし、教科体育の指導の充実とともに、業間体育の設定や外遊びの励行、持久走・縄跳び大会の実施などによる運動の習慣化や運動への関心・意欲の高まりは大いに見られる。</li> <li>○ 生活リズムについては評価指標として児童の自己評価で90%に対し、86%とほぼ達成できた。養護教諭による保健指導や継続して取り組んだチェックカードによる啓発、ノーメディアデーの取組により成果は確実にあらわれてきていると考える。</li> <li>○ 食育指導については指導計画を確実に実施できた。栄養教諭との食育授業や弁当の日を実施したり、給食時のマナー・栄養指導などを学年の発達段階に応じて指導したりしている。</li> <li>○ むし歯の治療率100%を達成できた。養護教諭の呼びかけや保護者の協力に感謝したい。</li> <li>○ 体育・食育に関しては家庭と連携した取組が不可欠と考える。学校保健委員会や参観日の懇談等を通じた保護者への啓発を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 心身の健全な発達と体力の向上は最も重要であり、業間体育、運動の習慣化等の実施はたいへんよいと思う。</li> <li>◇ 体力テスト等は大切であると考え。これを基に児童の体力等を見極めながら、運動に関心を高める個々の指導も時には必要ではないかと考える。</li> <li>◇ 健康づくりには生活リズムの定着は当然で、食の大切さ(時に歯の健康)の意識が高いと思う。</li> <li>◇ むし歯の治療率100%は素晴らしいと思う。今後も油断なく呼びかけ、学校保健委員会等での協力要請をお願いしてほしい。</li> <li>◇ 元気面(心・体)、寺迫小の子どもたちは素晴らしいと思う。教職員の皆さんの一糸乱れぬ連携だと考える。</li> </ul>
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	57 68 33	29 29 67	10 3 0	4 0 0	3.4 3.7 3.3			
11	学校は、給食指導や食に関する指導について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	86 71 44	10 28 56	4 1 0	0 0 0	3.8 3.7 3.4			
12	学校は、歯の健康づくりをめざし、歯みがき指導やむし歯の治療の奨励について、積極的に取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	67 74 33	22 25 67	7 0 0	4 1 0	3.5 3.5 3.3			

4 絆 【連携・学校全般】

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
13	学校は、ふるさとの歌人「若山牧水」をはじめとする文化に親しませるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	67 91 22	26 8 78	6 1 0	1 0 0	3.6 3.9 3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月実施している牧水タイムでの短歌作りや全校朝会・行事等での牧水短歌朗詠、登校時の短歌朗詠、宮日文芸への短歌投稿などで豊かな文化に恵まれた教育活動が展開できた。</li> <li>○ 「青の国若山牧水短歌大会」「若山牧水青春短歌大賞」での優秀賞受賞や市牧水かるた大会での団体上位入賞など多くの成果を挙げることができた。</li> <li>○ 地域の協力により今年度も稲作や野菜栽培など地域の素材や人材を生かした体験活動に取り組むことができた。また、総合的な学習の時間の見直しを行い、キャリア教育の面からも充実した学習活動を目指していく。</li> <li>○ 学校便りは定期的に発行できた。新聞記事掲載やケーブルメディアで教育活動が紹介される機会もあった。ホームページは頻繁な更新ができなかった。</li> <li>○ 参観日、学校行事等は概ねよい結果であった。実施後の反省を確実にに行い、より充実した内容に改善していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 郷土の文化、特に若山牧水に関する行事等はたいへんよいことであり、今後も続けてほしい。</li> <li>◇ 若山牧水短歌大会入賞作品集を拝見した。本当に多くの子どもたちが入賞していたことが、我が事のように嬉しく感じた。やはり何だかんだ考えることも大事だけれど、発表の場に参加することもいいと思う。</li> <li>◇ ふるさと学習や体験活動が、児童にとって貴重な体験の場として展開することを望む。</li> <li>◇ 地元よさを知る学習、例えば石碑文を知るなどの学習も取り入れてほしい。</li> <li>◇ 地域に住んで学校のことを知るためには、発行いただいている学校便り等のお便りがいいと思う。ホームページとかは高齢者が増えつつある現在では難しい。</li> <li>◇ 学校便りは家庭・地域に対する情報の提供に連携を図る場でもある。今後も期待している。</li> <li>◇ 兄弟姉妹がいりとなかなかゆっくり懇談に参加できないなどの話を聞く。保護者と職員の信頼関係がもっと深まる手だてが必要ではないか。</li> </ul>
14	学校は、ふるさと(地域)のひと(人材)やもの(素材)を生かした学習や体験活動を積極的に行っている。	児童 保護者 教職員	67 80 11	26 16 89	1 1 0	3 3 0	3.7 3.7 3.1			
15	学校は、教育目標や学校の取組等の情報等を各種会議会、学校だより、ホームページ等を通して分かりやすく伝えている。	児童 保護者 教職員	68 44	28 44	3 12	1 0	3.6 3.3			
16	参観日や学校行事は、保護者や地域との連携をめざした内容を工夫し、計画的に実施されている。	児童 保護者 教職員	72 44	25 56	3 0	0 0	3.5 3.4			

5 校長所見

- 昨年度に引き続き、学校経営ビジョンを、学び【知育】・笑顔【徳育】・元気【体育・食育】・絆【連携・学校全般】の4観点で構成し、各観点の評価項目と具体的な数値目標を示した評価指標を設定した。その際、昨年度の学校評価結果を踏まえて、目標数値の修正を行っている。また、年度初めの段階で、保護者や学校関係者評価委員に評価計画を説明したことで、教育活動や児童の姿容について、長いスパンでの評価が実施できたと考える。
- 4観点の総評平均は3.5で、昨年度と大差ない。学校関係者評価委員からも自己評価については妥当である、との評価をいただいた。ただ、学び【知育】の総評が0.2であった。特に児童の学習習慣に関する自己評価が下がり、次年度以降の課題ととらえている。学校全体として学習訓練的事項の確認や指導の継続、職員の授業力向上により解決を図っていきたい。家庭学習や読書指導に関しては、昨年度に引き続き高い評価が得られている。今後も家庭と連携した取組を行っていききたい。
- 安全指導や体力向上、食に関する指導、ふるさと学習等で望ましい評価が得られている。地域や家庭の協力を得ながら継続して取り組んできた成果であろうが、今後は新たな視点も加えながら、活動の充実を図っていききたい。郷土愛を育み、豊かな体験活動を実施するために家庭・地域との連携を深めながら、教育活動を充実させ、信頼される学校づくりに努めていきたい。